



# 第5章

---

## 資料編



## 北信州森林組合の系統運動の経過

全国森林組合連合会では、平成12年～平成16年に「森林組合活動21世紀ビジョン」に基づき、持続可能な森林管理システムの構築を目指して組織・事業改革に取り組むこととし、具体的アクションプランとして「1stステージ：森林組合改革プラン」（平成15～17年度）、「2ndステージ：環境と暮らしを支える森林・林業・山村再生運動」（平成18～22年度）、「3rdステージ：国産材の利用拡大と森林・林業再生運動」（平成23～27年度）を展開してきました。

当組合では平成13年12月に合併が決まっていたことから、合併前には系統運動の取り組みはなく、合併後の取り組みは次のようになります。

### H16.4～H20.3 北信州森林組合改革プラン実施計画

平成16年度に改革プラン実施計画を作成しました。この改革プランについては、県内の組合では平成17年度に完了していますが、当組合は合併により遅れて作成しました。

三位一体の改革による市町村事業の減少や、県の入札改革などによる事業減少から経営改革が求められ、異分野への進出など、建設業や造園業の資格を取得し、事業拡大を図るなどの計画を策定しました。

### H20.4～H23.3 環境と暮らしを支える 森林・林業・山村再生運動

他の組合では、平成18年度から実施していますが、当組合にあっては改革プラン実施計画が遅れたため、実施計画が終了後の平成20年度から3ヵ年計画で取り組みを始めています。

木材自給率回復の兆しや、気候変動による温暖化防止等から、森林の持つ多面的機能の持続的発揮に対する期待が更に高まりを見せる中、森林組合の役割が問われることとなりました。そうした中で「森林管理体制」、「県産材安定供給」、「経営革新」の3つをテーマとした2ndステージが策定されました。

1. 組合員の協同で築く協同施行団地（施業共同化プロジェクト）、2. 国産材安定供給体制の構築（県産材安定供給プロジェクト）、3. 信頼され仕事を任される組織へ（経営革新プロジェクト）からなり、中核森林組合認定を目指すなどの計画を策定しました。

### H23.4～H28.3 国産材の利用拡大と森林・林業再生運動

前期の2ndステージに続く、3rdステージとして「森林・林業再生プラン」と歩調をあわせ策定されました。

地域林業の中核として未来につながる森林管理システムを構築し、森林施業の提案力、技術力、経営力を高め、組合員および森林所有者への利益還元を図り、林業就業機会を創出し、定住化をすすめる山村地域社会づくりに貢献することを森林組合の目的・使命と位置付けました。

1. 国産材の安定供給と流通改革、2. 提案型集約化施業と低コスト林業の確立、3. 組合員、地域の信頼を得る組織・経営の確立、の3つの課題とその解決策を実践するための計画を策定しました。

## H28.4 ~ R3.3 森林・林業・山村未来創造運動 ～次代へ森を活かして地域を創る～

3rd ステージに続く運動方針として、系統運動を通じて、地域の実情に応じた林業経営および森林管理の理念・方針を確立し、「1. 効率的かつ安定的な林業経営による組合員の経済的利益の向上、2. 林業・関連産業の活性化による地域社会の活力創造、3. 森林の持つ多面的機能の高度発揮による国民生活への貢献」を実現することを目指し、「1. 施業の集約化と先進技術の活用等による効率的な事業基盤の整備、2. 系統のスケールメリットを活かした国産材安定供給体制の構築、3. 組合員・社会に信頼される開かれた組織づくり」について取組みを策定しました。

## R3.4 (R4.4) ~ R13.3 JForest 森林組合ビジョン 2030

コロナ禍により1年遅れの策定となりました。

全国森林組合連合会ではスローガンを「地域森林の適切な利用・保全と林業経営のさらなる発展に向けて」とし、「1. 組合員サービスの向上、2. 働く人の所得向上・就業環境改善、3. 事業拡大・効率化による経営の安定」について方針及び計画策定するものです。

令和4年4月に開催される総代会で決定されます。

※ R8.3 に5年間の取組事項の成果検証を行うこととしています。

### 全国統一目標（スローガン）

～地域森林の適切な利用・保全と林業経営の更なる発展に向けて～

我々森林組合系統は、厳しい林業経営環境において、地域の森林を守り育て、組合員の経済的社会的地位の向上に取り組んできた。

令和6年度より森林環境税が広く国民から徴収される中、地域の森林整備の主たる担い手として、森林環境譲与税の活用に協力しつつ、引き続き適切な森林の利用・保全を通じて森林の持つ公益的機能の維持・増進を図り、SDGsの達成に貢献していく。

その上で、先人たちが植えた人工林が成熟期を迎えた今こそ、森林組合系統を挙げて、持続可能な林業経営を通じて、以下の3つの課題に取り組むこととする。

#### (1) 組合員サービスの向上

組合員の意向が多様化している中、協同組合として組合員に対して「何ができるか」を考え実践する。その一つとして、組合員への一層の利益還元を実現する。

#### (2) 働く人の所得向上・就業環境改善

他産業との賃金格差や労働環境等の課題がある中、内勤職員・現場技能者について所得の向上・労働安全対策をはじめとした就業環境改善を進める。

#### (3) 事業拡大・効率化による経営の安定

人工林が成熟期を迎え林産事業・販売事業が拡大し、また森林環境譲与税や森林経営管理制度、森林組合法改正などの新たな仕組みが始まった中、事業拡大やICTの活用を含めた効率化を進め、安定的黒字経営を実現する。

施設一覧

**創森館（本所）**

所在地：中野市壁田

地域材展示施設として平成 22 年 12 月開所。平成 21 年度木造公共施設整備事業を活用し建設されたもので、施設の構造は、全て地域材を使用し、広い空間を作るためトラス工法が採用された。

現在は、各支所業務を本所に一括統合している。



**利用事業室**

所在地：飯山市静間（飯山市新町庁舎）

合併時は本所として使用していた。

平成 24 年 4 月利用事業室開設。

これまで各支所に対応していた利用業務を、一括して対応する部署として新たに設けられた。

＜主な業務内容＞

庭木伐採、草刈、冬囲、除雪の業務請負、  
茸原木・杭木の販売



**赤坂林産事業所**

所在地：山ノ内町夜間瀬

平成 24 年 4 月林産事業を主体に事業展開する林産事業所が設置された。

かつては山ノ内町森林組合の事務所として使用されていた。



**赤坂中間土場**

平成 24 年、林産事業が主業務となる中で、木材の生産増加に伴い、貯木場として使用している。大型トレーラーに積み換えて遠方に出荷している。



**赤坂車庫**

夏期は除雪重機の保管庫として、冬期は高性能林業機械の保管庫として使用している。



**千石造林事業所・機械保管庫**

所在地：木島平村往郷



平成 24 年 4 月造林事業を主体に事業展開する造林事業所が設置された。

機械保管庫には、除雪重機を保管している。

### 坪山車庫

所在地：野沢温泉村坪山

除雪重機の保管庫として利用している。冬期は除雪の待機所としても使用している。



### 豊郷機材資材庫

所在地：野沢温泉村豊郷

小型重機や資材の保管庫として使用している。



### 斑尾山荘

所在地：飯山市飯山

冬期、除雪基地として使用している。



### 伍位野倉庫

所在地：飯山市静岡

現在は書庫として使用している。



### 分道車庫

所在地：飯山市飯山

除雪重機の保管庫として使用している。



### 池ノ平車庫

所在地：木島平村上木島

除雪重機の保管庫として使用している。



### グリーンハイツ

所在地：木島平村上木島

木島平村森林組合において1ターン職員用宿舎として建設された。現在は職員用宿舎として使用しており、空室については一般向けに貸し出しをしている（4戸）。



### 高天ヶ原除雪基地

所在地：山ノ内町平穩

冬期は除雪基地として使用している。



歴代役員名簿

任 期 役 職	第 1 期		第 2 期		第 3 期	
	H13.12 ~	H14.5 ~	H15.5 ~	H16.5 ~	H17.5 ~	H19.5 ~
代表理事組合長	小山邦武 <sup>*1</sup>	小山邦武 <sup>*1</sup>	小山邦武	小山邦武	森 昭 和	森 昭 和
副組合長理事	中山茂樹 <sup>*1</sup>	中山茂樹 <sup>*1</sup>	中山茂樹 <sup>*1</sup>	中山茂樹 <sup>*1</sup>	竹節邦男	竹節邦男
副組合長理事	富井喜義	富井喜義	富井喜義	富井喜義		
総務委員長	森 昭 和	森 昭 和	森 昭 和	森 昭 和	原修一郎	原修一郎
業務委員長	原修一郎	原修一郎	原修一郎	原修一郎	坂井昭男	坂井昭男
総務副委員長					高橋善造	高橋善造
業務副委員長					村田宗之	村田宗之
理 事	綿貫隆夫 <sup>*1</sup>	綿貫隆夫 <sup>*1</sup>	綿貫隆夫 <sup>*1</sup>	青木 一 <sup>*1</sup>	小根澤庄一	小根澤庄一
”	柳澤萬壽雄 <sup>*1</sup>	柳澤萬壽雄 <sup>*1</sup>	木内正勝 <sup>*1</sup>	木内正勝 <sup>*1</sup>	中山稿一	中山稿一
”	高橋善造 <sup>*1</sup>	高橋善造 <sup>*1</sup>	柳澤萬壽雄 <sup>*1</sup>	柳澤萬壽雄 <sup>*1</sup>	山崎桂二	高森壽實夫
”	清野眞木生 <sup>*1</sup>	清野眞木生 <sup>*1</sup>	高橋善造 <sup>*1</sup>	高橋善造 <sup>*1</sup>	高森壽實夫	山本茂樹
”	小根澤庄一	小根澤庄一	清野眞木生 <sup>*1</sup>	清野眞木生 <sup>*1</sup>	山本茂樹	石川幹雄
”	山本啓文	山本啓文	小根澤庄一	小根澤庄一	石川幹雄	富井喜義
”	山岸信夫	山岸信夫	山本啓文	山本啓文	富井喜義	山田潤一郎
”	本山剛史	本山剛史	山岸信夫	山岸信夫	山田潤一郎	高橋剛太郎
”	久保田哲夫	久保田哲夫	本山剛史	本山剛史	高橋剛太郎	北沢弥紀男
”	今清水一男	今清水一男	久保田哲夫	久保田哲夫	北沢弥紀男	本山剛史
”	藤沢敏文	山本茂樹	今清水一男	今清水一男	本山剛史	竹田 勇
”	村田宗之	村田宗之	山本茂樹	山本茂樹	竹田 勇	小林正治 <sup>*4</sup>
”	山田潤一郎	山田潤一郎	村田宗之	村田宗之		
”	竹節邦男	竹節邦男	山田潤一郎	山田潤一郎		
”	北沢弥紀男	北沢弥紀男	竹節邦男	竹節邦男		
”	本山日出雄	本山日出雄	北沢弥紀男	北沢弥紀男		
”	宮澤義明	宮澤義明	本山日出雄	本山日出雄		
”	坂井昭男	坂井昭男	坂井昭男	坂井昭男		
”	小林忠栄	小林忠栄	小林忠栄	小林忠栄		
代 表 監 事	関口隆信	関口隆信	関口隆信	関口隆信	山田吉太郎	山田吉太郎
監 事	大木幸治	大木幸治	宮澤義明	宮澤義明	嶋田晴男	嶋田晴男
”	滝沢信幸	滝沢信幸	滝沢信幸	滝沢信幸	齋藤虎雄	齋藤虎雄

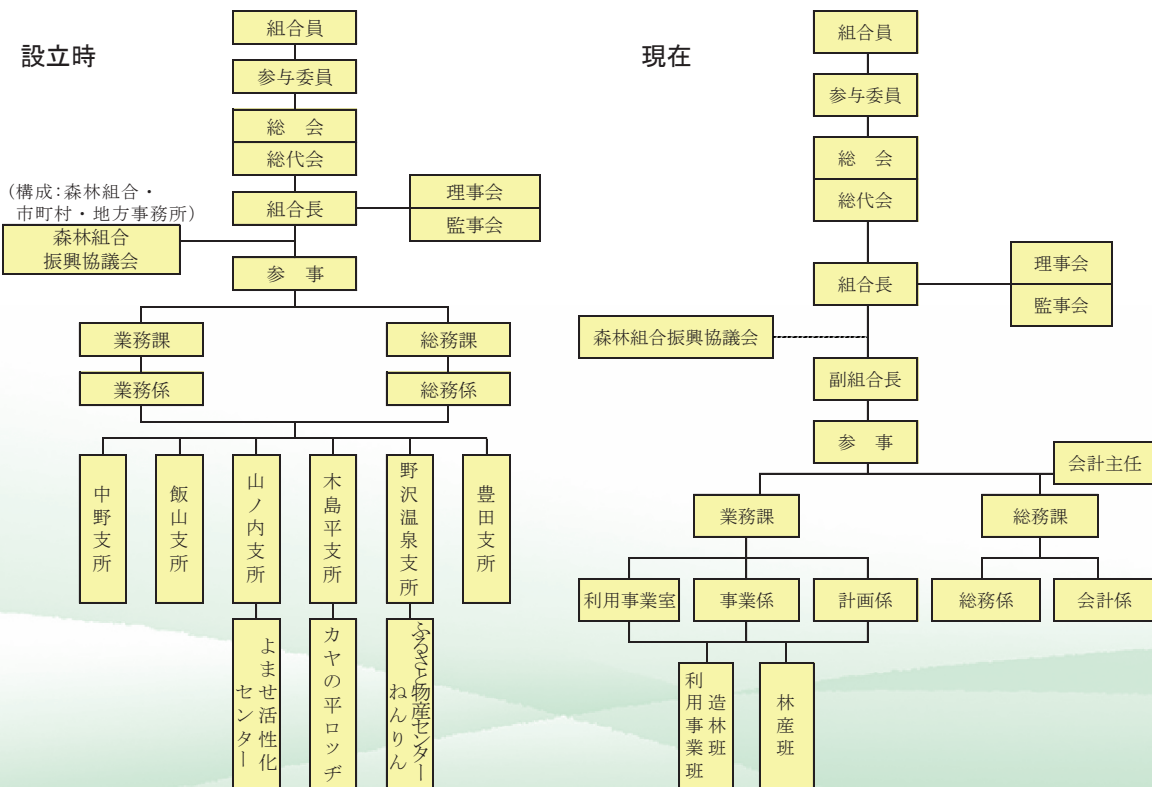
第4期		第5期	第6期		第7期	第8期
H20.4～	H21.9～	H23.5～	H26.4～	H27.4～	H29.4～	R2.4～
原 修 一 郎	高森壽實夫	高森壽實夫	中 山 稿 一	中 山 稿 一	中 山 稿 一	清 水 侃
高森壽實夫	高 橋 善 造	中 山 稿 一	小根澤庄一	小根澤庄一	石 川 幹 雄	竹 内 義 明
高 橋 善 造	中 山 稿 一					
中 山 稿 一	小根澤庄一	小根澤庄一	石 川 幹 雄	石 川 幹 雄	清 水 侃	平 田 幸 男
山 本 茂 樹	山 本 茂 樹	山 本 茂 樹	小 山 孝 治	小 山 孝 治	竹 内 義 明	藤 澤 敏 孝
小根澤庄一	小 林 裕 正	小 林 裕 正	小 林 裕 正	小 林 裕 正	平 田 幸 男	吉 池 茂 敏
小 山 孝 治	小 山 孝 治	小 山 孝 治	嶋 田 晴 男	嶋 田 晴 男	藤 澤 敏 孝	丸 山 隆 久
高野福一郎	高野福一郎	竹 内 義 明	竹 内 義 明	竹 内 義 明	小 淵 喜 由	丸 山 松 良
小 林 裕 正	小 裕 莊 平	藤 田 忠 良	宮 澤 章 榮	宮 澤 章 榮	湯 本 眞 司	関 保 典
小 裕 莊 平	石 川 幹 雄	小 裕 莊 平	掛 川 得 一	掛 川 得 一	成 合 宣 孝	瀧 澤 俊 實
石 川 幹 雄	宮 澤 章 榮	石 川 幹 雄	湯 本 眞 司	湯 本 眞 司	片 塩 善 久	小 嶋 秀 治
宮 澤 章 榮	嶋 田 晴 男	宮 澤 章 榮	平 田 幸 男	平 田 幸 男	丸 山 隆 久	佐 藤 次 雄
嶋 田 晴 男	高橋剛太郎	齋 藤 虎 雄	藤 田 忠 良	藤 田 忠 良	佐 藤 正 樹	森 和 樹
高橋剛太郎	佐 藤 卓 造	嶋 田 晴 男	清 水 侃	清 水 侃		
佐 藤 卓 造	塚 田 源 一 郎	高野福一郎	藤 澤 敏 孝	藤 澤 敏 孝		
塚 田 源 一 郎	鈴 木 幸 憲	佐 藤 卓 造	小 淵 喜 由	小 淵 喜 由		
鈴 木 幸 憲	竹 田 勇	小 淵 喜 由	富 井 繁 雄	富 井 繁 雄		
竹 田 勇	嶋 田 喜 一 <sup>※3</sup>	富 井 繁 雄	片 塩 善 久	片 塩 善 久		
嶋 田 喜 一 <sup>※3</sup>	小 林 正 治 <sup>※4</sup>	竹 田 勇	高野福一郎	成 合 宣 孝		
小 林 正 治 <sup>※4</sup>						
齋 藤 虎 雄	齋 藤 虎 雄	坪 根 繁 喜	山 本 明 秀	山 本 明 秀	小 林 茂 幸	高 坂 亀 美 雄 <sup>※2</sup>
坪 根 繁 喜	坪 根 繁 喜	山 本 明 秀	関 保 典	関 保 典	高 坂 亀 美 雄 <sup>※2</sup>	西 方 俊 也
山 本 明 秀	山 本 明 秀	鈴 木 幸 憲	日 碁 正 博	小 林 茂 幸		

※1 市町村長      ※2 員外監事      ※3 学識理事      ※4 職員理事

### 森林組合合併（新設、解散）系統図



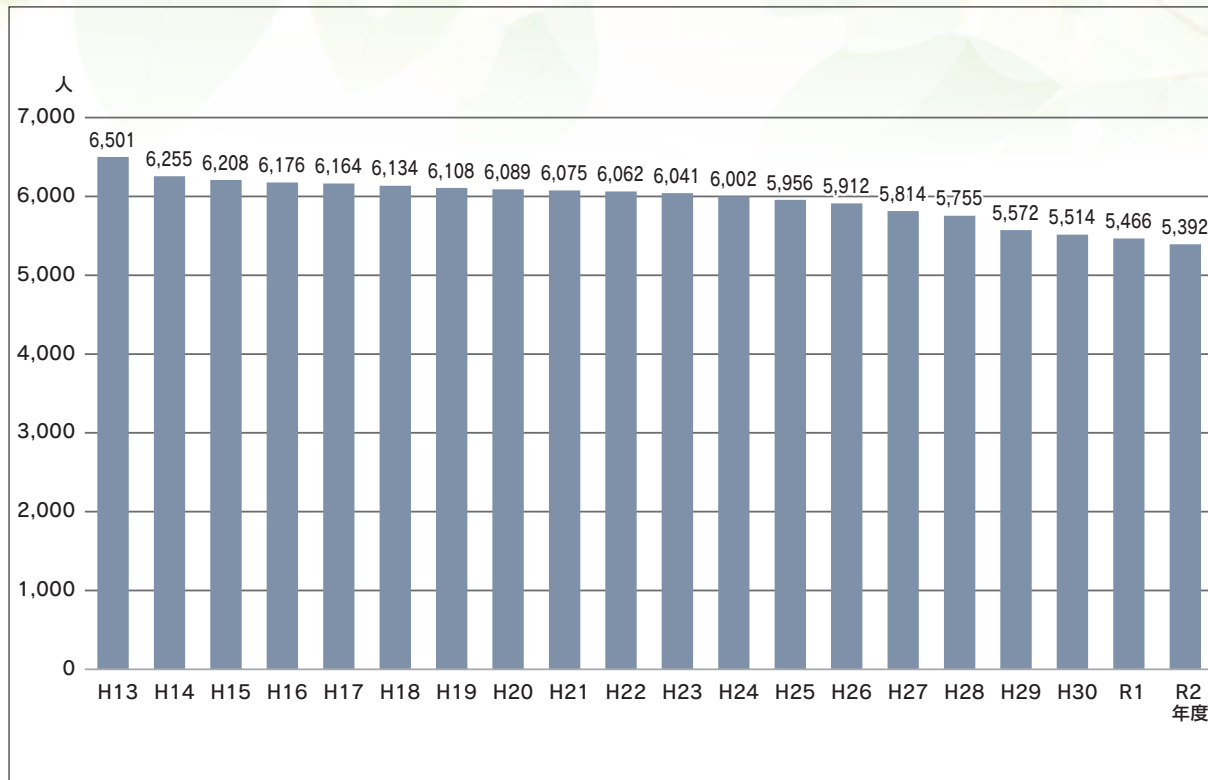
### 組織機構図



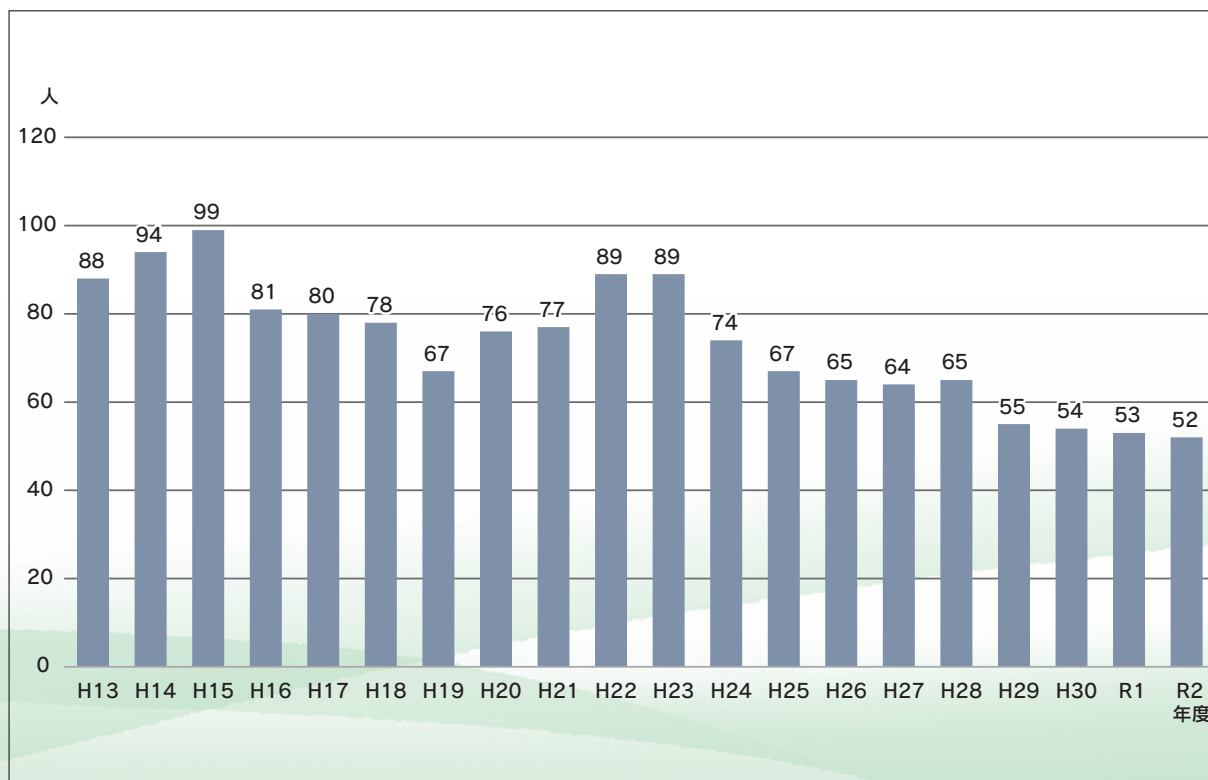


# 北信州森林組合の統計

## 組合員の状況

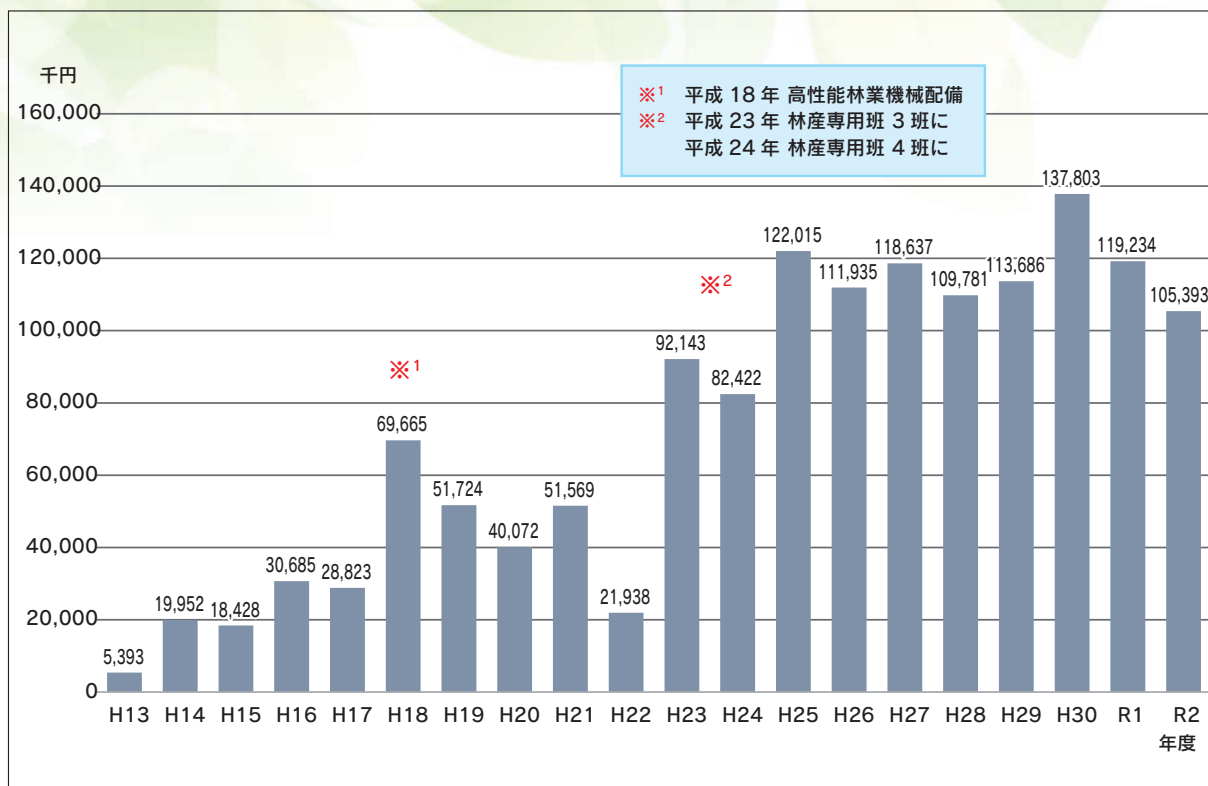


## 職員の推移

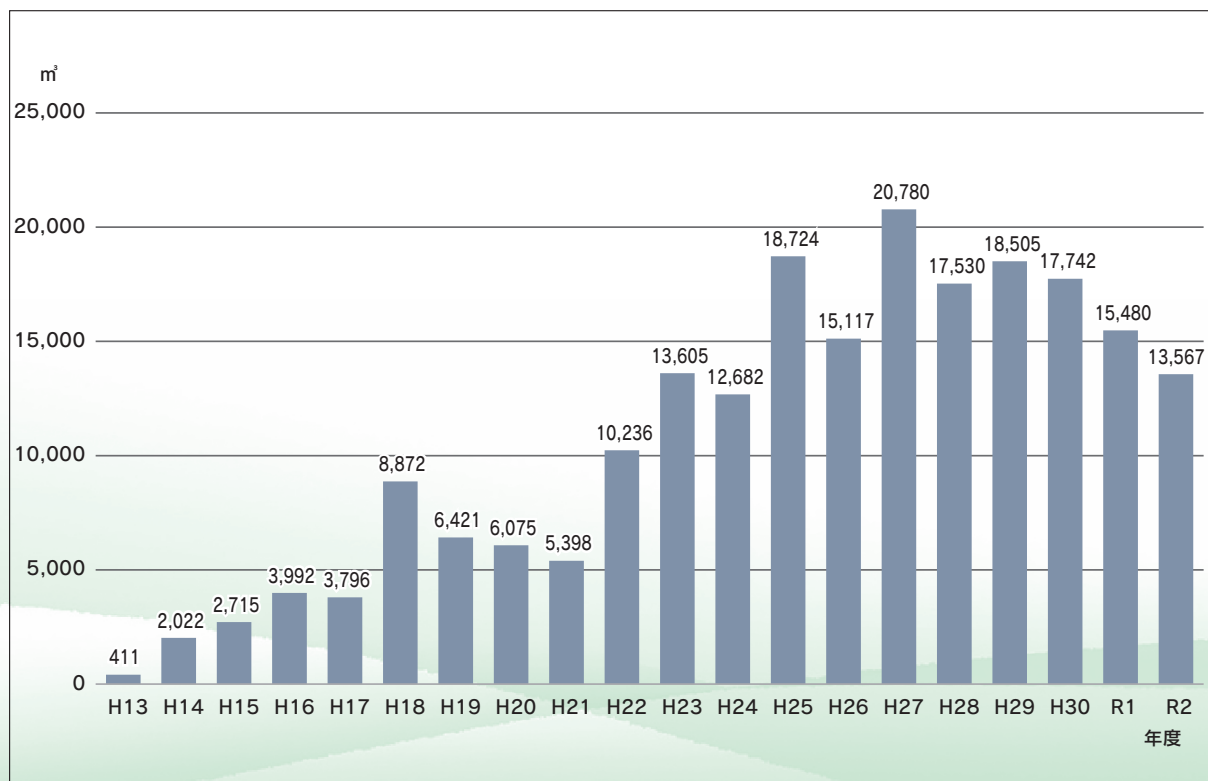


## 主要事業の状況

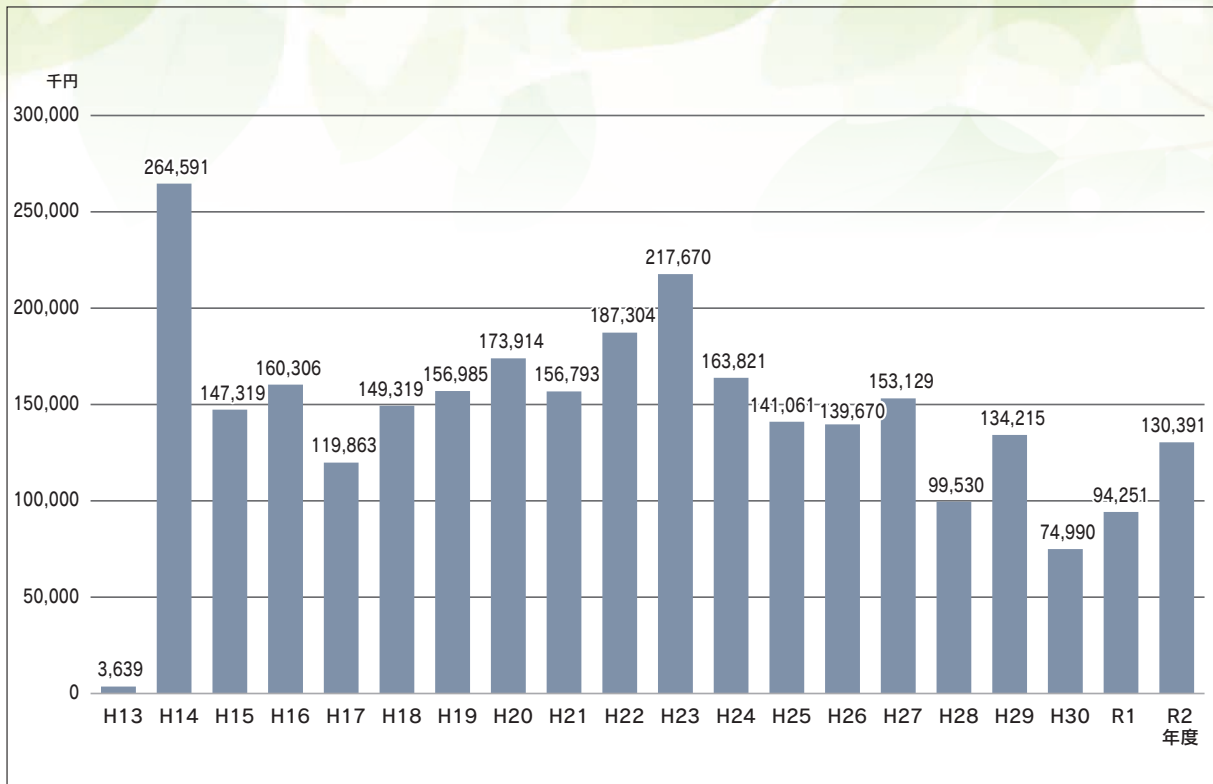
### ■受託林産取扱高



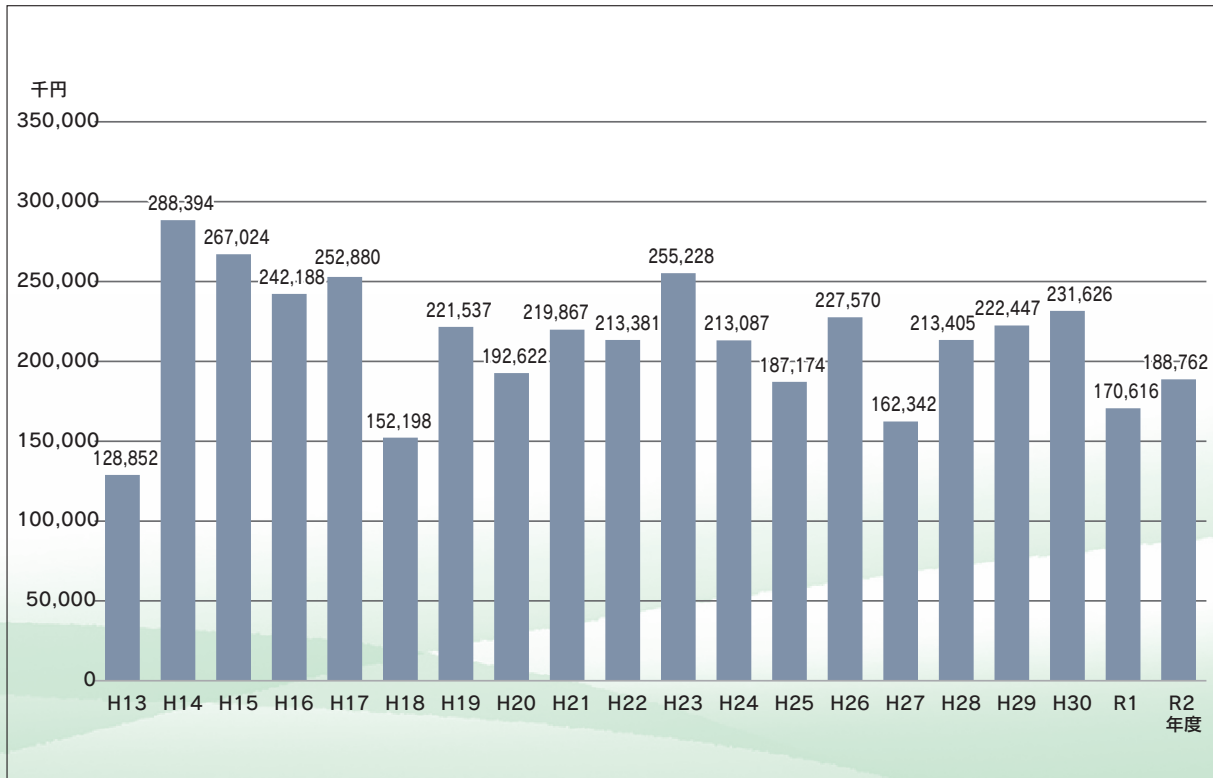
### ■木材生産量



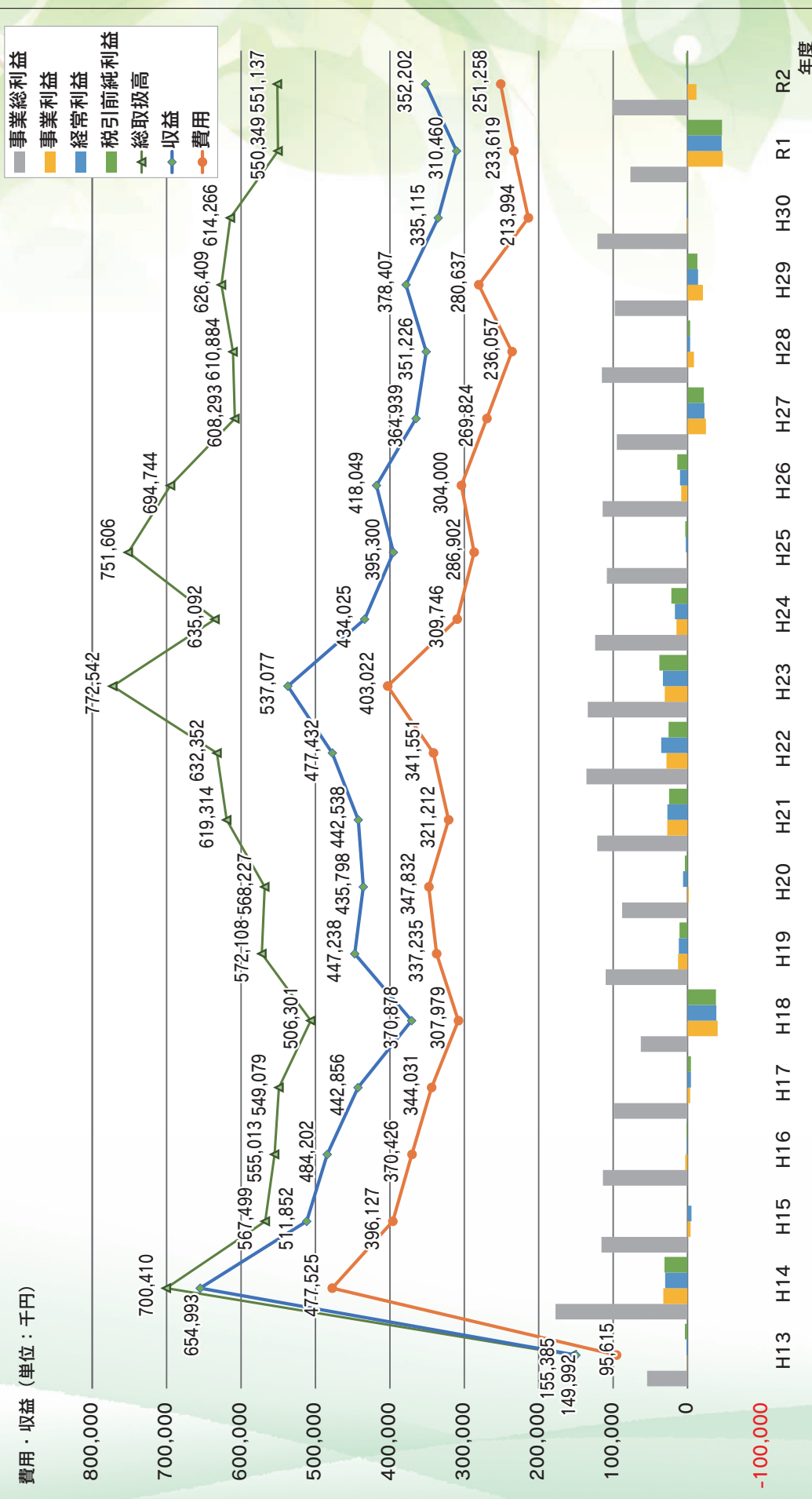
## ■ 森林整備部門



## ■ 利用事業部門（除雪含む）



組合経営 20 年間の推移



※総取扱高…収益 + 受託森林整備取扱高 + 受託林産取扱高 + 受託販売取扱高

## 北信州森林組合 役職員

### 役員



### 職員 本所



役職員

利用事業室



千石造林事業所



赤坂林産事業所



令和3年12月1日現在

## 編集後記

北信州森林組合の設立 20 周年という節目の年を迎え、ここに記念誌を発刊できますことを大変うれしく思います。

記念誌の作成にあたり、記念誌委員会は、最初にどの程度の本を作るのか、本の総ページ数・印刷部数・印刷業者・費用等と言うような事から話し合い、目次を作りました。すると、「20 年間のあゆみ」の項が、この本の中心になるだろうと気がつきました。記録写真や事業内容などの資料は、幸いなことに北信州森林組合の組合員報「むささび」があり、また事務局に 20 年間の事務処理の書類が保存されてありました。その数多くの資料を年度ごとに整理し、事務局が作成した初段階の原稿を校正するという形で委員会を進めました。また清水組合長・竹内副組合長・田中参事にも適切なお助言・ご指導をいただきました。

記念誌を振り返って見ますと、かつて各市町村にあった森林組合が、平成 13 年に北信州森林組合として統合スタートして以来、その時代の影響を受けながら一生懸命歩んできた足跡を余すところなく記録に留めたか、いささか心配の気持ちもございしますが、関係の皆様は 20 年間の残した功績と未来の森林推進事業の足がかりのため、お読みいただきたいと存じます。

最後になりますが、記念誌作成にご苦労いただいた事務局をはじめ大勢の方々に、記念誌委員会一同心より御礼を申し上げます。

### 記念誌委員会

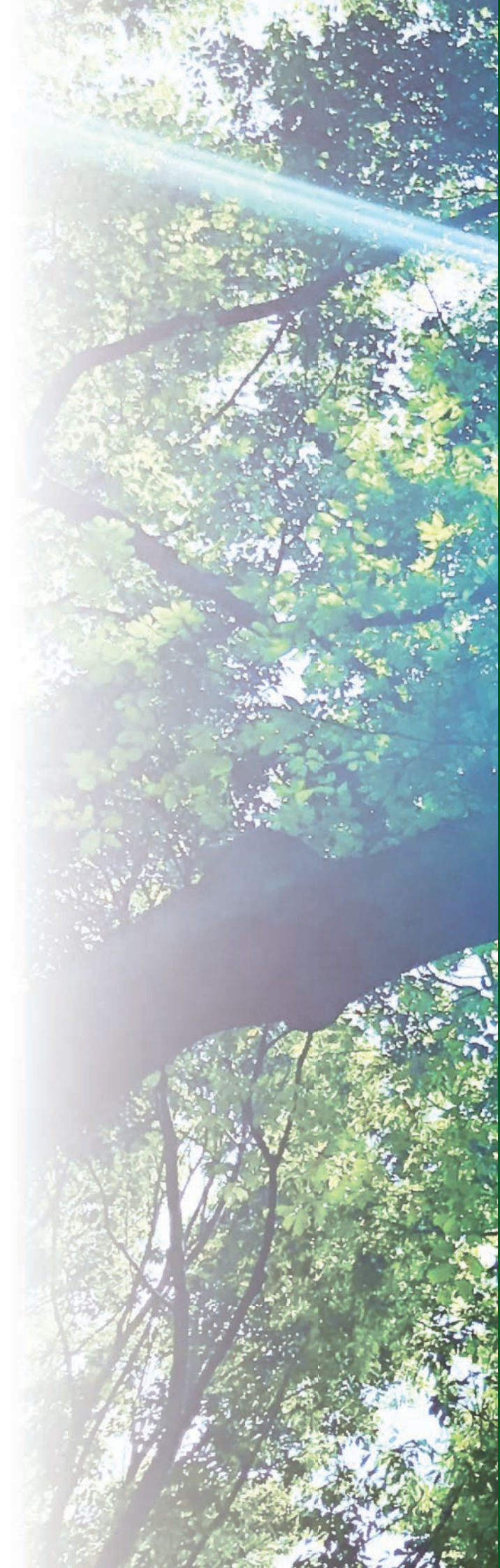
委員長	関 保典	(総務委員)
委員	藤澤 敏孝	(業務委員長)
委員	丸山 松良	(総務委員)
委員	中沢千恵子	(業務課事業係主事)
委員	小林 和江	(総務課会計係主事)

北信州森林組合設立 20 周年記念事業 記念誌  
令和 4 年 3 月 発行

編集 北信州森林組合設立 20 周年記念事業 記念誌委員会  
発行 北信州森林組合設立 20 周年記念事業実行委員会  
印刷 社会福祉法人 ながのコロニー長野福祉工場  
TEL 026-296-1411

北信州森林組合 中野市大字壁田 938 番地 1  
TEL 0269-38-0371 FAX 0269-23-5350





設立 20 周年記念誌

20 年のあゆみ

20th Anniversary